

## 「わかる・できる」喜びを味わわせる学習活動の取組

【羽生市教育委員会】

- 1 学校・学年・教科 中学校・全学年・全教科
- 2 ねらい 「わかる・できる」喜びを味わわせる学習活動を展開することで学力の向上を図る。
- 3 取組内容 「学力向上」をテーマとした平成23年度羽生市教育委員会アドバンススクール（羽生市最先端教育）事業で研究したことを継続・発展させ、昨年度の課題を克服する取組を紹介する。

### （1）校内学力向上部の設置

本年度より学力向上部（教務主任・学力向上担当者・各学年1名）を設置し昨年度の反省、本年度の方針、取組内容を確認した。1年生生徒アンケート結果では、6月では8割の生徒が家庭学習をしていたが、12月には6割に下がってしまう。小学校では家庭学習の習慣が身に付いていた生徒も中学生になるとやらなくなってしまう。また1年生の学力のばらつき等を本年度の課題として、以下のような取組を行っている。

- ア 1学年において毎日宿題のワークシートを作成し、提出させ添削をする。
- イ 月に1回程度、学習内容がどのくらい身に付いているかの確認テストを行う。
- ウ 学習内容が定着していない生徒やワークシートが提出できない生徒については、個別指導をする。
- エ 学力向上通信を発行し、家庭学習の大切さ等保護者への啓発をする。

### （2）学力向上支援プロジェクトの取組

家庭学習の習慣が身に付いたら、次は自分が「どこでつまづいているのか」をみつけ、それを克服するための支援を行っている。各学年・教科と連携をとり、各調査で明らかになった身に付けさせたい内容を中心に取り組む。

（生徒配布用資料参照）

### （3）補充学習の充実

昨年度までは、長期休業中に数学を中心に行っていたが、本年度は、5教科において補充学習を行った。数学と英語については事前に生徒が苦手としている単元のプリントを用意し個別指導をし、その他の教科については生徒が教師に分からないところを質問する形式をとった。その際大学生による学生ボランティアを活用した。

### （4）中学生学習ボランティア

学区内の小学校に中学生が出向いて勉強を教えた、本年度は他の小学校とも連携して行った。6日間で計69名の生徒が参加し、この活動で“教えることの喜び”を見だし、“学ぶことの大切さ”を実感した。

《生徒配布プリント》

## 学力ガングン向上！！ 学力向上支援プロジェクトのお知らせ

羽生市立〇中学校

学力向上部

毎日、計画的に家庭学習していますか？

「ワークをやるつもりはあるけど、**なかなか机に向かえない……**」

「苦手な教科を克服したいけど、**どうすればいいの？**」

「授業でやったことを**簡単に復習したい**」と感じている人は、

**“学力向上支援プロジェクト”** を利用しましょう！

【学力向上支援プロジェクトって何？】

生徒の皆さんの家庭学習の習慣化、そして学力向上を目指す取組です。

【内容】

- ① *1st stage* 家庭学習を習慣化させよう
- ② *2nd stage* 分からないところ（つまずき）をみつけよう
- ③ *3rd stage* 苦手な単元（教科）に進んでチャレンジ

① **「ワークがなかなか進まない」「テスト勉強が、なかなかはかどらない」と感じる人**

→学力向上担当の先生が全力でサポートします。

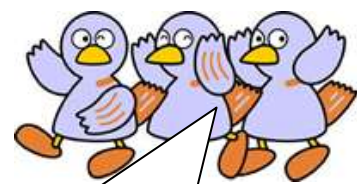
② **「授業で分からないことがあった」「理解できているか不安」と思っている人**

→教科担当の先生に聞きに行きましょう！

③ **「授業の復習をしたい」「苦手分野を克服したい」と思っている人**

→**復習用プリント「ぼっちりシート」**にチャレンジしましょう！

「ぼっちりシートは」各学年のフロアにおきます。（とりあえず数学からスタートします）チャレンジしたシートは、指定のポストに投函！学力向上部の先生が添削した後、更に個々に応じたフォローアップを行います



先生たちが全力でサポートします！

一緒にがんばっていきましょう！

#### 4 成果と課題

「わかる・できる」喜びを味わわせるには、小さな成功体験を積み重ね、自分もやればできるんだという自信が必要不可欠である。そのために「できなく叱る」から「やらせきってほめる」を合い言葉に取り組み、初めは自分ではできないとあきらめていた生徒も支援を受けながら学習するようになった。平成24年度の埼玉県学習状況調査の結果によると、本校の生徒は「授業で分からないところをそのままにする」という回答が県より高く、「宿題ができれば宿題をする」という回答が低い。この課題をこれらの取組を通して克服していきたい。